

## 松村祐希さんが Multis2019 の Student Travel Grants に採択

理学研究科化学専攻の博士後期課程 1 年、物性物理化学研究室に所属する松村祐希さんがポーランド・クラクフで 7 月に開催された、Multiscale Phenomena in Molecular Matters で Student Travel Grants に選ばれました。この会議は、本化学熱学レポートにご報告したように、2 年に一度のサイクルで、クラクフの Henryk Niewodniczański 核物理研究所で開催される分子凝縮系や分子磁性の物性に関する国際会議です。今年から、ポーランドの博士課程の大学院学生の研究活動支援を行う PROM program から予算補助を受け、海外から参加する優秀な学生を選び、参加のための旅費と滞在費の支援をすることが出来るようになったそうです。この会議に参加予定だった松村さんが、発表の Abstract と必要書類をそろえて、応募したところ、組織委員長の Robert Pełka 先生から、審査の結果採択されたという通知を頂きました。

松村さんは、「Mott criticality and glassy features of phonons induced by electron correlations in molecule-based superconductors studied by heat capacity measurements」というタイトルで、7 月 2 日の夕方、ポスター発表を行いました。Mott 転移を起こす二量体型の二次元電荷移動塩で発生する境界領域での特異なフォノンの構造と、その低温領域で生じる超伝導相の中での電子状態のクロスオーバー現象について、極微単結晶を用いて測定した熱容量からわかった新しい展開をまとめたわかり易い発表でした。Grants への採択者はポスターにその旨を明記し、プレゼンテーションをすることになります。多くの参加者がポスターを訪れ、夕刻まで議論が続きました。初めての海外での国際会議で緊張もありましたが、分野も異なる研究者も来てくれたそうで、充実した時間を過ごすことが出来たようです。発表した内容は、化学圧力効果を調べるのが中心でしたが、現在、高圧下での測定の高精度化を進めています。今後の更なる展開に期待したいと思います。

(中澤康浩)

